

マキアベリ著「君主論」岩波文庫、岩波書店 1998年6月16日刊を読む

1. 君主たる者はまた自分が力量の愛好者であることを示して、力量のある人びとを厚遇し、一芸に秀でた人物たちを賞賛しなければならない。
2. さらににはまた自分の市民たちを励まして、商業にせよ、農業にせよ、人びとの他のいかなる職業にせよ、安んじて彼らが各自の生業に専念できるようにしなければならない。
3. ましてや、誰かが自己の所有物を召し上げられるのを恐れて、それに装飾を施さなくなったり、別の誰かが課税を恐れて、取引を開かなくなったり、そのような真似を許さないどころか、そういうことをしたがる人物がいれば、またいかなる方法であれ、自分の都市や政体の威光を高めようとする者がいれば、誰に対しても褒賞ほうしょうを与えてやらねばならない。
4. その上また、一年のうちの適当な時季に、祝祭や興行を催して、民衆の関心をそちらへ逸そらせるようではなければならない。
5. また、そのためにこそ都市はみな業種や地区に分割されているのだから、それぞれの団体を尊重し、ときおり、会合で彼らと親しく交わり、自分が人間性にあふれた寛大な心の模範的人物であることを示さねばならないが、そのさいに、だがしかし、絶えず威信に満ちた風格を保ち続けねばならない。

P168 ~ 169

#### [コメント]

「君主たる者」を「リーダーたる者」と読み換えれば、「貞観政要」と「君主論」ほど今日のリーダーに役に立つ古典はない。古典に親しみ、古典を身に付け、古典を生かすことは、今も昔も、リーダーには不可欠だと思う。

- 2010年4月19日 林明夫記 -